

学力向上に効果のある取組事例

別府市立山の手小学校

⑰校内研修などによる授業改善

取組の具体①

○思考力・判断力・表現力の育成

- ・授業中、対話活動の前と後に自分の考えを整理する目的で「書く」活動を位置づけている。
- ・「書く」活動が支えになることで、ペア・グループ学習における意見交流を、スムーズに行うことができる。

○「努力を要する状況の児童」への個に応じた支援

- ・「書く」場があることで、考えを表現することを苦手と感じている子どもが、発表しやすい気持ちをもちやすくなる。

ノートに考えを書く様子



交流の様子



取組の具体②

○全体研・学年部研の推進強化

- ・全体研と学年部研を数年前から継続して国語と算数を中心に行っている。授業研も全学年が計画的に行っている。
- ・上記取組の継続性が、学び合う教師集団づくりの向上と、子どもの長期的な変容を捉えることにつながっている。それにより、研究内容の見直しや改善に取り組んでいる。

○アンケートによる児童の意識調査

- ・児童アンケートで、学習意欲の状況を分析し、日頃の授業改善につなげている。

1 学期児童アンケートより

学習	11	12	13	14
	授業がわかる。楽しい。	Padは学習の役に立った。	友だちの考えをよく聴くことができた。	自分の考えを友だちに伝えることができた。

できたと感じている児童割合(%)

	1・2年	3・4年	5・6年
11	88.5	88.0	89.0
12	95.5	92.0	97.5
13	94.0	93.5	96.5
14	93.5	85.5	88.0